社　会　科　学　習　指　導　案

１　単元名

　「現代の経済社会と国民生活」（「最新現代社会　改訂版」実教出版）

　　第１章　「現代の経済社会」　「金融の役割」から「日本の財政の課題」

２　単元の目標

　日本の抱える金融・財政の課題を見いだし、それについて思考し判断したことを自他に対して適切に表現する。

３　単元の評価規準

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 |
| ①政府の経済的役割について関心をもち、現代の経済社会の諸事象を的確に捉えようとしている。 | ①財政や金融の課題を見いだし、他者との検討を通して多面的・多角的に検証し、適切に表現している。 | ①財政や金融の課題について考察したことや学習の成果について、教科書や資料から適切にまとめ、効果的に活用している。 | ①財政や金融のしくみと機能に関する知識を、法的根拠とともに身に付け、国民福祉の向上と関連付けて理解を深めている。 |

４　単元の指導計画（全６時間）

|  |  |
| --- | --- |
| 時 | 学習活動 |
| 第１時 | ・教科書P126～127を読み、金融の役割と機能について確認する。・財政上の問題点からこの後の各時間の問いを設定し、仮の結論を発表する。 |
| 第２時 | ・教科書P126～127を読み、金融の役割と昨日について確認する。・金融機関や金融市場の役割等について、資料を活用してワークシートにまとめる。 |
| 第３時 | ・教科書P128～129を読み、中央銀行の役割、金融市場の仕組み、金融政策の目的と手段についてグループ学習を行うとともに、ワークシートにまとめる。 |
| 第４時 | ・教科書P130～P131を読み、グループ協議を通じて財政政策の意義や役割及び財政性の基礎となる租税について理解し、ワークシートにまとめる。 |
| 第５時 | ・第４時の学習内容を踏まえて考察した内容や学習の成果を基に、多様な資料から事例を収集し、ワークシートにまとめる。 |
| 第６時 | ・第１時で設定した問いについて、自身の考えをこれまでの学習を基に多面的・多角的に検討し、ワークシート上に表現する。 |

５　単元における「分かり方の特性」に応じた指導・支援のポイント

　教育庁指導部特別支援教育指導課が作成した「『読めた』『わかった』『できた』読み書きアセスメント」（平成30年）の「通常の行動チェックリスト」及び、平成28年度東京都教職員研修センター教育課題研究「子供一人一人の『分かり方の特性』を生かした指導法に関する研究」指導資料「児童・生徒の得意な処理の傾向を簡易的に把握するためのチェックリスト」を用いて生徒一人一人の得意な処理の傾向を把握し、それぞれの得意な傾向に合わせた指導を行うことで、生徒の理解度の向上を図る。

　なお、生徒一人一人の「分かり方の特性」はいずれかの得意な傾向に依存するものではなく、どの特性がより優位であるかを示すものであるため、いずれかの傾向に傾倒しないようにすることが重要である。

 (1) 着目した情報を処理する手段を生かした指導・支援の工夫

|  |
| --- |
| 継次処理能力優位を生かした授業の展開 |
| ・教科書を順次読解するが、前時の内容を踏まえつつ新たな視点を付け加えて授業を展開することで、意味段落同士のつながりを理解しやすくする。 |
| 同時処理能力優位を生かした授業の展開 |
| ・第１時に教科書を通読し、文章が何を示しているかということを踏まえて単元の中心的な問いとして設定し、その問いに対する答えを結論として仮設定することで単元の見通しをもたせる。 |

(2) 情報を知覚する手段の優位性を生かした指導の手だて

|  |  |
| --- | --- |
| 聴覚優位 | 言語視覚優位 |
| ○音読又は黙読の際に、唇を動かして読ませる。○濁音、半濁音、拗音をはっきりと発音し、理解させる。○ペア又はグループで話し合う。 | ○音読又は黙読の際に、難読語の読みを確認させる。○本文中の重要語句を丸で囲ませたり、キーワードを箇条書きにしたりする。○グループワークの際の視点を文字で表す。 |
| 象形視覚優位 | 体感覚優位 |
| ○本文の内容を意味段落のまとまりで図示する。○ＩＣＴ機器を用いて、授業内容に関する写真や映像を提示する。○重要語の対比構造が明確な板書を書く。 | ○ペア又はグループで話し合う。○本文中の重要語に線を引いたり書き出させたりしたものを基に、話合い活動を行う。○音読又は黙読の際に、唇を動かして読ませる。 |

(3) 読み書きアセスメントの結果を踏まえた指導の手だて

　　 事前に実施した「『読めた』『わかった』『できた』読み書きアセスメント」の問題を、読解に関連する問と漢字の知識に関連する問とに分類し、それぞれの正答率を基に生徒をＡ領域からＤ領域の４領域に分類した。

|  |  |
| --- | --- |
| 領域名 | 分類条件及び傾向 |
| Ａ領域 | 読解に関連する問と漢字の知識に関連する問のそれぞれの正答率が共に50％以上である生徒 |
| Ｂ領域 | 読解に関連する問題の正答率は50％以上であるものの、漢字の知識に関連する問の正答率が50％未満である生徒 |
| Ｃ領域 | 漢字の知識に関連する問の正答率は50％以上であるものの、読解に関連する問の正答率が50％未満である生徒 |
| Ｄ領域 | 読解に関連する問と漢字の知識に関連する問のそれぞれの正答率が共に50％未満である生徒 |

　　読み書きアセスメントの結果を基に、以下の指導の手だてを学級の傾向に応じて組み合わせることで、基礎的な学力の向上を図る。

　　ア　Ｂ領域の生徒に対する指導の手だて

　　　(ｱ) 語句の意味表を活用し、語彙力及び漢字の読み書きの能力や、学習した語句を適切に使用する力の向上を図る。

　　　(ｲ) 中学校程度の基本的な語を、授業の中で指導者が平易な言葉に言い換えて、意味を確認しながら読解を行うことで、基本的な語彙力の向上を図る。

　　イ　Ｃ領域の生徒に対する指導の手だて

　　　　本文中にある接続語の意味や使い方、指示語の指示内容を丁寧に確認しながら読解を行うことで、文と文のつながりや段落同士のつながりを意識して読む態度を養う。

　　これらの手だてに加え、通常の行動チェックリスト及び児童・生徒の得意な処理の傾向を簡易的に把握するためのチェックリストの結果を用いて、生徒一人一人傾向に合わせてペアワークやグループ学習の編成を工夫したり、指導の手だてを工夫したりする。

６　本時の展開（第１時）

　　本時の目標： 単元の中心的な問いについて、仮説を考える。

　※〔同〕は同時処理能力優位、〔継〕は継次処理能力優位、〔聴〕は聴覚優位、〔言〕は言語視覚優位、〔象〕は象形視覚優位、〔体〕は体感覚優位をそれぞれ表し、それぞれの生徒に合わせた指導上の工夫である。

また、《　》は読み書き達成テスト結果におけるＡ～Ｄ領域の生徒に合わせた指導上の工夫を表す。さらに、　　　は各ＷＧの取組と関連の深い活動及び留意点を表す。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ○学習内容・学習活動 | 指導上の留意点配慮事項 | 「分かり方の特性」又は読み書きアセスメントの結果における各領域に配慮した指導上の工夫 | 学習活動に即した具体的な評価規準（評価方法） |
| 導入展開 | 〇金融と税制について学習を行うことの確認・税金について知っていることや既習事項を発表する。＜グループ学習＞〇給与と税の関係についての理解・ワークシート①を配布し、給与明細表を基に、気付いたことを話し合う。・図を示しながら、この小単元では政府、企業、家計、銀行の役割やお金の流れについて学習することを確認する。○金融の循環の概要を理解する。・単元の中心的な問いを考える前提として、ワークシート①の２を教科書126ページを参照しながら記入する。 | ・本単元に興味をもつ　ための活動であるため、生徒の興味に任せた発表を認める。・「国の借金」というキーワードに発問を導く。・「気付いたこと又は、税金に対して思うこと」に関しては、自身の体験や見分から根拠を挙げるよう指導する。・**語句の活用表**を配布し、分からない語句を適宜確認するよう伝える。・「税金に対して思うこと」で、「税金が高い」「無駄遣いが多い」等の意見が出るという予想を踏まえ、「では、どのように税金を使えばよいのか」という問いを用意する。・生徒の意見や、問いに対する答えを図に記入する。・学習したことを基に、どのようにお金を使えばよいのか考えていくことを伝え、単元の中心的な問いにつなげる。【単元の中心的な問い】生きたお金の使い方とは何か・ワークシートの図が分かりにくければ、自身で独自に作図してもよいことを伝える。・「チャレンジ問」は、「税金を納めるとどのような『よいこと』があるか」という視点で考えるよう指導する。「社会保障」や「福祉」と書ければ評価する。（のちに学習） | [同]「『国の借金が多いことは課題』というのは本当かどうか」この学習を通して考える、ということを板書等で明示する。[継]資金調達→経済活動→利益の流れで学習することを伝える。＜役割分担を明確にした話し合い活動＞・ステータスシートに基づいて、意図的にグループ編成を行う。・グループ内の各役割を分担して話し合いを行う。・机間指導を行い、課題の進捗状況を確認するとともに、円滑に活動が進むように、手段を活用するように促す。《Ｃ》指示語や接続語を用いて、文章で書くよう指導する。《Ｂ》語句の活用表を参照させ、できるだけ漢語で書くよう指導する。[象・言]教科書126ページの３金融の循環の図を参照してよいことを伝える。[体]意見交換の場や発表で話すよう促す。［言］《Ｂ》語句の意味表を活用して、意味を確認しながら記入するよう指導する。《Ｃ》矢印同士のつながりを接続語に言い換えさせながら、文章で理解できるよう指導する。例）「家計は、納税をすることで、社会保障を受ける」など。[聴]意味の難しい語句は、意味を口にしながら書くよう指導する。[体]記入できないところは、友達や教員に聞くよう伝える。 | ・給与や税金等について、多面的・多角的に考えることができる。 |
| まとめ | 〇単元の中心な問いについての考察＜グループ学習＞・グループでワークシート①の１及び２に書いたことを基に、「生きたお金の使い方」につながる問いとして、３「我々は、どのようにお金を使うのが望ましいか」について、これまでのワークシートの記述を基に意見を出し合う。【理想的な回答】自分が応援する企業に対し、株式や社債の購入を通じて資金を提供することで、企業の成長に見合ったリターンを得る。また、政府に対しては税金を支払うことで、その金額に見合った社会福祉を得る。・出し合った意見を集約し、発表する。・中心的な問いについて考え、ワークシート等にまとめる。〇本時の内容のまとめ・本時が「中心的な問いに対する仮説を考える」という内容であったことを確認する。〇次時の内容の確認 | ・ふるさと納税やクラウドファンディングの例等を挙げることで、生徒に投資が身近なものであることを伝える。・この時間では、理想的な回答に至らなくてもよい。・他者の発表を聞いて、自身の意見に赤鉛筆などで書き足させることで、交流後に書き足した部分が分かるようにする。・発問等で本時の学習内容を確認する。・金融の循環の概要の中で、銀行、企業、家計について詳しく学習することについて伝える。 | ［聴・象］ホワイトボードを使って話し合える環境を設定する。《Ｂ》語句の活用表を参照させ、できるだけ漢語で書かせるようにする。《Ｃ》指示語や接続語を用いて、文章で書くよう指導する。《Ｂ》語句の意味表を活用し、できるだけ漢語を用いて書くよう指導する。《Ｃ》指示語、接続詞、接続助詞を意識し、主語と述語の関係を踏まえた上で、表現したい内容となるよう個別に指導する。 | ・単元の中心的的な問いについて、仮説を考えようとしている。［関心・意欲・態度］（ワークシート）Ｂ規準課題に対して、既有の知識や経験から、仮説を考えようとしている。 |

７　本時の展開（第２時）

　　本時の目標：金融機関や金融市場の役割、また金融制度の変化について、教科書や資料からワークシートにまとめる。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ○学習内容・学習活動 | 指導上の留意点配慮事項 | 「分かり方の特性」又は読み書きアセスメントの結果における各領域に配慮した指導上の工夫 | 学習活動に即した具体的な評価規準（評価方法） |
| 導入展開まとめ | 〇前時の振り返り・ワークシート①を基に前時の内容を振り返り、単元の中心的な問いを確認する。〇銀行、企業、家計のお金の流れの理解・銀行、企業、家計はどのように資金を融通しあっているのかを各自で教科書等で調べ、ワークシートに記入する。〇「間接金融」と「直接金融」についての理解・ワークシート②の１の点線部Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを基に「間接金融」と「直接金融」についての説明を聞き、２を記入する。＜グループ学習＞〇直接金融、間接金融のメリットとデメリットについて理解し、我々はどのようにお金を使うことが経済の発展につながるかを考察する。・ワークシート②の４について、各自で記入する時間を経てグループで話し合う。〇企業と我々との関係において、「生きたお金の使い方とは何か」について考え、自分なりの答えを導く。【理想的な回答】応援する企業に資金を提供し、よい商品を得ることや提供した資金に応じた配当を得ることで、経済の循環を目指す。又は、自身の資金は自身のものであるため、自身の幸福につながるような消費活動を行う。 | ・中心的な問いの解決に向けて、銀行、企業、家計のお金の流れについて学ぶ必要性があることを確認するよう促す。・「銀行」「企業」「家計」の役割について、教科書や資料等で調べるよう促す。・資料等例　「わたしたちの生活と金融の働き」（金融庁）ｐ６～９　　家計と企業ｐ12～ｐ13　銀行と家計　　　　　　銀行と企業「2020　ズームアップ現代社会資料　改訂版」39　金融の役割・教科書や資料等を示しながら、ワークシートや用語について説明する。・ワークシートに追記したり、余白に記入したりしてもよいことを伝える。・ステータスシートに基づいて、意図的にグループ編成を行う。・他者の発表を聞いて、自身の意見に赤鉛筆などで書き足させることで、交流後に書き足した部分が分かるようにする。・ワークシート①－２の図を使いながら、次時の内容を確認する。 | [同]本時は、中心的な問いの答えを、より正確に考えるための学習であることを明示する。[継]資金調達→経済活動→利益の流れで学習することを伝える。[象]言葉と言葉の関係を矢印や記号を使ってつないだりしながら考えさせるようにする。[象・言]教科書や資料等を示して、理解を深めるよう指導する。[体]実際に自分で調べたり、まとめたりする。《Ｂ》３　語句の整理を最初に記入してから取り組ませる。＜役割分担を明確にした話し合い活動＞・ステータスシートに基づいて、意図的にグループ編成を行う。・グループ内の各役割を分担して話し合いを行う。・机間指導を行い、課題の進捗状況を確認するとともに、円滑に活動が進むように、手段を活用するように促す。[聴・象・言・体]ホワイトボードやＩＣＴ機器等を使って、意見を可視化して話し合える環境を設定する。《Ｂ》語句の意味表を活用し、できるだけ漢語を用いて書くよう促す。《Ｃ》指示語、接続詞、接続助詞を意識し、主語と述語の関係を踏まえた上で、表現したい内容となるよう個別に指導する。[象・言]ワークシートに分かったことや確認できたことを記入することで、考えを深めるよう指導する。 | ・本時の学習活動について知ることができる。・教科書　や資料から　ワークシー　トにまとめ　ることができる。［資料の活用］・本時を振り返り、学習内容について適切に表現することができる。 |

８　本時の展開（第３時）

　　本時の目標：中央銀行の役割、金融市場の仕組みや金融政策の目的と手段について、正しくまとめる。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ○学習内容・学習活動 | 指導上の留意点配慮事項 | 「分かり方の特性」又は読み書きアセスメントの結果における各領域に配慮した指導上の工夫 | 学習活動に即した具体的な評価規準（評価方法） |
| 導入展開まとめ | ・前時の内容を振り返り、単元の中心的な問いを確認する。・中心的な問いの解決に向けて、本時の問いを確認する。○中央銀行の役割、金融市場の仕組みや金融政策の目的と手段についての理解・指導者のまとめ方の例を確認するとともに、学習の進め方について確認する。・P128,129を読んで、以下の課題について、ワークシート③等にまとめる。①日本銀行の役割にはどのような役割があるか。②金融政策の何のために行っているのか。③金融政策の手段にはどのような手段があるか。④生きたお金の使い方とは何か。＜グループ学習＞・グループでワークシート等に書いたことを交流する、・特に優れたまとめ方をしている生徒（Ａ規準の生徒）のワークシートを紹介する。・友達との交流を通して、改めて分かったことや確認できたことを自分のワークシート等に書き足す。 | ・中心的な問いの解決　に向けて、日本銀行の役割や金融政策の目的や手段について学ぶ必要性があることを確認するよう促す。・ワークシートと、白　紙のどちらを使ってまとめてもよいことを伝える。・絵を使ったり、表や　図を用いたりしてもよいことを教師のまとめ方の例で示す。・ノートにまとめるこ　とに困った時に使える手段を確認する。①教員と相談する。②友達と相談する。③教科書で調べる。④資料集で調べる。⑤教師の作成したプリントで調べる。⑥掲示物で調べる。⑦ウェブページで調べる。⑧ホワイトボードを使って話し合う。など・生徒の実態によっては、まとめの際に必ず使うキーワードを指定するとよい。・机間指導を行い、課　題の進捗状況を確認するとともに、円滑に活動が進むように、手段を活用するように促す。・本時で押さえたいキ　ーワードを伝える。・赤鉛筆などで書き足　させることで、交流後に書き足した部分が分かるようにする。 | 日本銀行が行う金融政策の目的は何だろう。どのような仕組みだろうか。[継］考える順番を示したワークシートを用意する。[同］生徒のゴールイメージ通りに考えることができるように白紙を用意する。[聴・象］関連資料動画などを視聴できる環境を設定する。[言］教科書の重要語句にラインを引くとよいことを声かけする。［聴・象］ホワイトボードを使って話し合える環境を設定する。[言］関連する新聞記事などを読んだり、ウェブページの記事を読んだりできる環境を設定する。[体]実際に自分で調べたり、まとめたりする活動を設定する。教科書や資料を理解するために≪Ｂ≫重要語句の意味をまとめた資料を配布する。・需要・供給・資金・通貨・金利・景気・緩和・担保・インフレ 等＜役割分担を明確にした話し合い活動＞・ステータスシートに基づいて、意図的にグループ編成を行う。・グループ内の各役割を分担して話し合いを行う。・机間指導を行い、課題の進捗状況を確認するとともに、円滑に活動が進むように、手段を活用するように促す。 | 財政や金融のしくみと機能に関する知識を、法的根拠とともに身に付け、国民福祉の向上と関連付けて理解を深めている。［知識・理解①］（ワークシート等）Ｂ規準中央銀行の役割、金融市場の仕組みや金融政策の目的と手段について、正確にまとめている。 |

９　本時の展開（全６時間中の第４時）

　　本時の目標：財政政策の意義や役割、財政制度の基礎となる予算や租税の概要について理解し、その知識を身に付ける。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ○学習内容・学習活動 | 指導上の留意点配慮事項 | 「分かり方の特性」又は読み書きアセスメントの結果における各領域に配慮した指導上の工夫 | 学習活動に即した具体的な評価規準（評価方法） |
| 導入まとめ | ○公園建設に関する資金の流れと財政の機能についての理解・都内の国立公園（新宿御苑大温室等）の写真を見て、建設費を予想する。・建設費について、誰がどのように資金を集めたのかを考え、小グループで話し合う。・教科書P130を読み、ワークシート④のメモの「集め方」、「使い方」を記入する。・新宿御苑以外の公共財の例を挙げる。・本時の課題を確認する。〇歳入の基本としての租税と、租税の種類についての理解・教科書P130を読み、知っている租税について小グループで話し合いながら、ワークシート④の「集め方」「使い方」の「理解したこと」の欄に記入する。・教科書P131の５を読み、国税と地方税の違い、直接税と間接税の違い、主な租税の種類を確認する。・教科書P130の２を読み、歳入の主な内訳をワークシート④の「国のお金を集めるときの工夫」に記入する。・「国のお金の集め方」について理解したことをワークシートの「国のお金を使うときの工夫」欄にまとめる。〇身近な税金の使い道の理解・教科書P131の資料４を読み、税金の使い道を確かめる。○所得税に着目し、累進課税制度の仕組みと「所得の再分配」について理解する。・Ｐ130の資料１を拡大した掲示物を読み、累進課税制度が、所得が高くなるにつれて高い税率をかける制度であることを確認する。・累進課税制度の目的を教科書から読み取り、ペアで確認する。・「所得の再分配」の是非について、自分の立場を明確にし、小グループで話し合う。○「国のお金の使い方」について理解したことをノートにまとめる。〇「経済の安定化」について理解するとともに、財政がもつ三つの機能について再確認する。・「経済の安定化」の仕組みについて、教科書P130を読んで理解する。○本時の学習をまとめ、単元の中心的な問いに対する考えをもつ。・友達との交流を通して改めて分かったことや考えたことを自分のワークシートに書き足す。 | ・大温室の建設予算が約35億円であることを伝える。また、建設は環境省が行っていることを伝える。・身近な建築物やその他の国立公園などから考えるよう指示する。・財政の機能は三つあり、その一つとして、「公共財の供給」があることを導けるよう指導する。教科書P126の資料３の拡大コピーを掲示し、金融の循環について、確認する。「『だれ』から『どのように』集めているのかを視点にして、まとめるよう指導する。高校生の教育負担額に着目させ、自分たちの学校生活にも税金が使われていることを確認する。ノートにまとめることに困った時に使える手段を確認する。①教員と相談する。②友達と相談する。③教科書で調べる。④資料集で調べる。⑤教師の作成したプリントで調べる。⑥掲示物で調べる。⑦ウェブページで調べる。⑧ホワイトボードを使って話し合う。　高所得者、低所得者両方の立場に立って自分の考えをまとめるよう指示する。「『どのような目的』で『どのようなこと』に使われているのか」を視点にして、まとめるよう指導する。・教科書P126の資料３の拡大コピーを使い、累進課税の機能を説明する。 | 財政の意味と機能「公共財の供給」の理解のために〔聴〕財政の意味を読み上げる。濁音、半濁音、拗音をはっきりと発音する。〔言〕財政の意味、機能を一文で表した掲示物を示す。〔象〕公園の写真、金の絵を提示し、資金の流れを図解化する。〔体〕公園建設に関わる資金の流れをジェスチャーで示す。《Ｃ》教科書P130の「第一は、第二は、第三は」の表記に注目させる。〔同〕本時の課題を提示し、「国のお金の集め方」と「集めたお金の使い方」についてノートにまとめることがゴールであることを伝える。〔継〕本時の学習の流れと手順を示す。国のお金はどのように集められ、どのように使われているか。（本時の問い）《Ｂ》歳入と歳出の意味を確認する。他にも、雇用、妨げる、需要（供給）、租税の種類の理解のために〔聴〕租税名を読み聞かせる。濁音、半濁音、拗音をはっきりと発音する。〔言〕難読語の読みを確認させる。〔象〕内容をイメージしにくいもの（地価税、関税等）は、ＩＣＴ等を用いて図で表す。〔体〕酒税、たばこ税など、動作で表せるものをジェスチャーで示す。所得の再分配の理解のために〔聴〕教科書の説明箇所を音読する。〔言・象〕所得200万円と4000万円の場合にかかる税を具体的な金額として示す。〔体〕「再分配」の意味について動作化して考えるよう促す。・ステータスシートに基づいて、意図的にグループ編成を行う。・グループ内の各役割を分担して話し合いを行う。・机間指導を行い、課題の進捗状況を確認するとともに、円滑に活動が進むように、手段を活用するように促す。財政の機能の理解のために〔同〕本文を通読し、財政の機能を端的に表す箇所に線を引く。〔継〕教科書P130の文にある、「第○に」という文頭に着目させる。〔象〕図解化した資料を見るよう指示する。〔体〕重要語に線を引き、それを基に話す。 | 財政政策の意義や役割、財政制度の基礎となる予算や租税の概要について理解し、その知識を身に付けている。（ノート） |

１０　本時の展開（全６時間中の第５時）

　　　本時の目標：日本の財政の課題について考察したことや学習の成果について、教科書や資料から適切にまとめ、効果的に活用する。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | 　学習内容・学習活動 | 指導上の留意点配慮事項 | 「分かり方の特性」又は読み書きアセスメントの結果における各領域に配慮した指導上の工夫 | 学習活動に即した具体的な評価規準（評価方法） |
| 導入展開まとめ | ・前時までの内容を振り返り、単元の中心的な問いを確認する。〇税制改革の動向の理解・「一般会計の歳入・歳出」の1988年と2014年のグラフを比較し、違いを見つける。・具体的な税制改革の例を確認する。（消費税導入、所得税の減税、法人減税、東日本大震災の復興経費をまかなうための臨時増税、地球温暖化対策税等）〇「国債」についての理解・税制改革を行っても、租税で必要な歳出をまかなえないときに国がおこなう借金が「国債」であることを理解する。・本時の問いを確認する。国債を減らすためには、どうすればよいだろうか。〇グラフの読み取り・以下の①②のグラフを基に、気づいた点、国債についての課題をワークシート⑤にまとめる。①P130「一般会計の歳入・歳出」②P133「財政の歩み」＜グループ学習＞○国債を減らすためにできることの意見を出し、自分なりの考えをもつ１　グラフの特徴の共有２　国債についての課題３　国債を減らすための方策例「消費税を15％に引き上げ、法人税は減税しない。」　「申告漏れや脱税をなくすために、自営業を含めた個人の所得を電子データで管理する。」○話し合いの結果をワークシートにまとめる。〇単元の中心的な問いに対する考えをもつ。 | ・中心的な問いの解決に向けて、財政の課題について学ぶ必要性があることを確認させる。・前時の振り返りとして、語句の意味表の用語を確認する。・グラフについて気付かせることを重視し、本時の中心的な活動につなげる。・直間比率の違い違いによる変化に気付くよう指導する。・グラフを読み取る上でも重要な語であるため、丁寧に確認する。・ワークシート⑤の表面と裏面のどちらを使ってまとめてもよいことを伝える。・絵を使ったり、表や図を用いたりしてもよいことを教師のまとめ方の例で示す。・ワークシートにまとめられない時に使える手段を確認する。①教員と相談する。②友達と相談する。③教科書等で調べる。 | [言・象]ルビを振ったカードで示す。必要に応じて、イラストで示す。[体]入と出、直接と間接のように、必要に応じて、体を使って意味を捉えるよう促す。グラフの理解のために[聴]グラフの違いを声に出して確認する。[言] グラフの違いを文章でまとめるよう促す。[象]変化した部分に色を塗るなど、大切なポイントに気付くよう指導する。[体]変化している個所を指で示し、説明するよう促す。税制改革の理解のために（内容を示すイラストを提示）〔聴〕声に出して読む。〔言・象〕ルビを振ったカードで示す。必要に応じて、イラストで示す。〔体〕必要に応じて、体を使って意味を捉えるよう促す。「国債」の理解のために〔聴〕声に出して読む。〔言・象〕ルビを振ったグラフを使用する。必要に応じて、イラストで示す。グラフの読み取りのために〔聴〕気付いたことを声に出して確認する。〔言・象〕増加や減少などを矢印等を用いるよう指導する。〔体〕増加や減少などを体を使って確認する。《Ｃ》国債残高や国債依存度が増加、減少した理由を考えさせ、文章でワークシート中に書くよう指導する。＜役割分担を明確にした話し合い活動＞・ステータスシートに基づいて、意図的にグループ編成を行う。・グループ内の各役割を分担して話し合いを行う。・机間指導を行い、課題の進捗状況を確認するとともに、円滑に活動が進むように、手段を活用するように促す。それぞれの優位を生かして、説明等をする。 | ・財政の課題について考察したことを資料から適切にまとめ、効果的に活用している。（ワークシート） |

１１　本時の展開（第６時）

　　　本時の目標：生きたお金の使い方についての自分の考えを前時までに学んだことを生かしてまとめようとするとともに、他者との検討を通して多面的・多角的に検証し、適切に表現する。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ○学習内容・学習活動 | 指導上の留意点配慮事項 | 「分かり方の特性」又は読み書きアセスメントの結果における各領域に配慮した指導上の工夫 | 学習活動に即した具体的な評価規準（評価方法） |
| 導入 | ・前時までの内容を振り返り、単元の中心的な問いを確認する。 | ・前時までのワークシ　ートはファイリングさせておく。・前時までのワークシ　ートの記述内容を確認するよう促す。・前時までの学習を振　り返り、国のお金の歳入と歳出の流れを確認する。国民一人一人のお金がどのように国のお金の流れと関連性があるのかを気付くよう指導する。【単元の中心的な問い】生きたお金の使い方とは何か | [聴・象］前時までに使用していた図や表を掲示する。[継］前時までの「本時の問い」を順に確認するよう促す。 |  |
| 展開 | ○単元の中心的な問いに対しての考察・指導者のまとめ方の例を確認するとともに、学習の進め方について確認する。・以下の課題について、ワークシート⑥にまとめる。生きたお金の使い方とは何か。＜グループ学習＞・グループでワークシートに書いたことを交流する、・特に優れたまとめ方をしている生徒（Ａ規準の生徒）のワークシートを紹介する。 | ・絵を使ったり、表や　図を用いたりしてもよいことを教師のまとめ方の例で示す。・ワークシートにうま　とめられない時に使える手段を確認する。①教員と相談する。②友達と相談する。③教科書で調べる。④資料集で調べる。⑤教師の作成したプリントで調べる。⑥掲示物で調べる。⑦ウェブページで調べる。⑧ホワイトボードを使って話し合う。⑨これまでのワークシートを活用する。・生徒の実態によっては、まとめの際に必ず使うキーワードを指定するとよい。・机間指導を行い、課　題の進捗状況を確認するとともに、円滑に活動が進むよう、手段を活用させる。・「何のために」「誰のために」「どこに」「どのように」などの視点で考えられるように促す。・本時で押さえたいキ　ーワードを伝える。 | [聴・象］関連資料動画などを視聴できる環境を設定する。[言］教科書の重要語句にラインを引くとよいことを声かけする。［聴・象］ホワイトボードを使って話し合える環境を設定する。[言］関連する新聞記事などを読んだり、Webページの記事を読んだりできる環境を設定する。[体]実際に自分で調べたり、まとめたりする活動を設定する。教科書や資料を理解するために≪B重要語句の意味をまとめた資料を配布する。≫・需要・供給・資金・通貨・金利・景気・緩和・担保・インフレ 等＜役割分担を明確にした話し合い活動＞・ステータスシートに基づいて、意図的にグループ編成を行う。・グループ内の各役割を分担して話し合いを行う。・机間指導を行い、課題の進捗状況を確認するとともに、円滑に活動が進むように、手段を活用するように促す。  | 政府の経済的役割について関心をもち、現代の経済社会の諸事象を的確に捉えようとしている。「関心・意欲・態度①」Ｂ規準生きたお金の使い方についての自分の考えを前時までに学んだことを生かしてまとめようとしている。（観察・ワークシート）財政や金融の課題を見いだし、他者との検討を通して多角的に検証し、適切に表現している。［思考・判断・表現①］Ｂ規準生きたお金の使い方についての自分の考えを他者との検討を通して多角的に検証し、前時までに学んだことを生かして適切に表現することができる。（観察・ワークシート） |
| まとめ | ・本時の学習を振り返り、分かったことや確認できたことをワークシートに書き足す。 | ・書き足す部分は鉛筆　の色を変えるよう指導する。 |  |  |